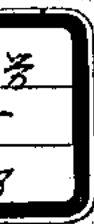


海外婦人労働資料第40号

1953年10月

ヨーロッパにおける婦人の職業指導



労働省婦人少年局

ヨーロッパにおける婦人の職業指導

ILO 事務局 婦人少年課

マーガレット・パーネック

この資料は、本年9月28日労働省婦人少年局主催の講演会におけるマーガレット・パーネック女史の講演要旨です。女史はI.L.O第3回アジア地域会議のために来朝されたアイルランド出身のI.L.O事務局員です。

1. 婦人雇用の現状

ヨーロッパ各国で行われている婦人の職業指導についてお話しする前に、その土合になる婦人の雇用の現状について、お話ししておきたいと思います。

戦後の傾向として、婦人は従来の職業の分野からいちじるしく進出しました。この傾向はいたるところで見られましたが、戦後の産業経済の情勢によつて、これは後退を余儀なくされる部分もあります。例えば英国では、繊維産業に以前から婦人の労働力を大量に用いていたことはよく知られていますが、戦時中には機械工業にも相当動員されました。政府は工場の建設にあつて、婦人の労働力を多く得られる地域を計画的に選びました。ノールウェーやスウェーデンでも婦人の雇用について、いろいろな方策が講じられ、また東ヨーロッパの諸国においても同様でした。

ヨーロッパでは戦前から婦人の雇用は比較的多かったのですが、今日ではさらに数を増し、労働力の給源として不可欠なものとなり、単に補助的な労働力ではなくなりました。それは国の政策として考えられた場合もあり、また偶然の場合もあつたでしょうが、いずれにしても婦人の雇用が増大していることは事実です。数だけでなく、職業の種類の多様性——職業分野の拡大という点も、戦後の婦人雇用の傾向として見のがせないことです。そのように婦人の労働力は過去10年の間に大きな変化を見せています。

しかし婦人の職業上の地位はどうでしょうか。婦人が職業の階級の低い場所を占めていることは昔と変わりありません。そして大部分が相変わらず未熟練労働者にすぎません。職業上の地位は、婦人の職業として古くからあるものと、新しく進出した分野とではだいぶちがっています。例えば、古い

産業分野に属する繊維産業に婦人の労働力が占める率は、ベルギー 55%、スウェーデン 67% であつて、だいたい 50~60% の線を動かない状態ですが、新分野に属する薬品製造業や化粧品製造業、せっけん・マッチ等の製造工業、販売業、飲食店、その他の専門的職業などでは、一般に婦人の地位は、古い産業分野よりも高くなつています。

また既婚婦人の数もふえており、ことに人口の少ないオランダなどでは、それが目立っています。結婚して続けて働く人もあるし、また一度やめて、子供が一定の年齢に達してから、再び職場に戻ってくる人もあります。これらの人々の多くは経済的な理由によつて働いているのですが、何といつても婦人には職業上の技術をもっていない人が多く、それがハンディキャップになるので、技術を身につけることが、婦人の当面の問題と云えます。

婦人が技術を身につけていないのは、今まで婦人に対して組織的な職業指導が行われず、十分な職業訓練を受ける機会にも恵まれなかつたことによるもので、このことがまだ、婦人の地位を低い階級に釘づけにしている大きな原因なのであります。

2. 職業指導とは何か

婦人が未熟な職業や低賃金、すなわち職業の低い階級から上に昇るために、職業指導が必要なのは以上の通りですが、では、職業指導とは、どんなことでしょうか。職業指導とは「ひとりひとりがよい職業を選び、それに就き、そこで進歩するのを援助する」活動で、この原理は男女とも同じものです。しかし職業指導の内容は国によつ

て、また人によつて必ずしも同じ意味に受けとられていないようですが、唯一つだけ、どこでも共通なことがあります。それは、「個人の特徴を重んじ、個性に応じた職業指導を行う」ことで、ILO の 1949 年の勧告にも、そのことが明記されています。従つて職業指導には 2 つの面があります。それは就職しようとする個人の資質・傾向を研究することと、就職の機会を研究することの 2 つの面です。就職の機会をつかむには、まず社会の機構を正確につかむことが大切です。この 2 つの面を研究することによつて、良心的に職業を選択することができます。

3. 婦人の職業指導について

私はこれからヨーロッパ各国の職業指導についてお話するのですが、ヨーロッパといつてもたくさんの国があり、それぞれ異つた歴史・組織・機能を持っているので、ここでは職業指導の 3 つのタイプを代表する 3 つの国——イギリス・フランス・スイスの職業指導についてお話いたします。

イギリスの職業指導は非常に有名な employment service (職業紹介) から多くのものをとり入れ、さらに、その上に教育的な要素を付加しています。機関としては地方庁の受託になっていますが、地方の教育関係または労働関係の機関が取扱つているところもあります。そしてその地方の学校とは特に緊密な連絡をとつています。

政府には国家青年雇用庁というような機関があつて、地方庁では中央政府の方針に従つて職業指導を行います。地方の職業指導の機関には相談員がいて、青年たちの指導に当たっています。個人面接が相談員のお

もな仕事で、面接によつて児童の精神的・身体的の資料を集め、それによつて児童に助言を与えます。

フランスでは全く異つた方法で行われています。学校とも、職業紹介の機関とも別個の独立した組織で、相談員は国立養成所で養成され、特に心理学を専攻し、心理学的テストには深い知識と経験を持つていので、相談の方法もテストに重点がおかれています。フランスの方法は診療所的で、テストによつて綿密な診断を行います。

イギリスとフランスの方法は両極端で、スイスはその中間をいつているといえるでしょう。スイスでは地方庁が直接これに当たっていますが、単なる職業紹介ではなく、相談員は個人面接も行ひ、学校とも連絡をとり、テストも行つています。

4. 性別による指導の差について

つぎに職業指導は男女に対して、どんな異つた方法で行われているのでしょうか。職業指導の根本的理念は男女によつて変らないはずですが、実際には少しちがつた方法で行われています。女子には婦人の相談員が、また男子には男子の相談員が指導にあたつたり、職業情報 (vocational information) の対象になる職業の分類も、男女によつて線を引いて、区別したりしています。このような性別による取扱の区別は、婦人に対する職業指導上の大きな問題であり、婦人の雇用の問題にも大きなつながりをもつています。設相談者の性別に従つて、相談員も男子には男子、女子には女子とするとには、私としては反対ですが、これに賛成している人もあります。そういう人々の説によれば、職業相談はたがいの心と

心が触れあうような方法で行われなければならないからとか、また、少女の心理は複雑で、男の先生には理解しがたい点もあるからとか、男の先生が女子の職業を指導するのは、かつこうがわるいなどというのです。また、相談を受ける側から見れば、相談員は自分の相談することについて何でも知つている權威のある人でなければなりません。女子の職業を男の先生が扱うと、この人はほんとうには知らないくせに、という不信用の気持ちが起ります。同様に女の先生が男の子に相談することについて話しても、男の子はあまり相談員の話を信用しない、というのです。また、相談員になるにはずいぶん多くの知識が必要だから、男女の分野に相談員を分けた方が、実際には能率があがるという説もあります。女の人には女らしいと云われる職業につく人が大部分なので、女子には女の相談員の方がよいというような意見もあります。

大きな職業指導所では多数の人を扱うなければならないので、相談員は一部を受け持たなければなりません。その時、仕事を横に切るよりも、対象的に切つた方がよいというので、女子には女子の相談員が當つている所もあります。

概して、男女を分けて指導することに賛成している人にはフェミニストが多いようです。女の職業について最も熱心に考えるのは女の人だから、女子の指導には女子の相談員がよいという論法ですが、もうフェミニストの時代は過ぎ、若い人々の間では一般に受け入れられなくなつています。

以上述べたことは、男女を分けて扱うことに賛成する人々の意見ですが、これは婦人の職業指導の方向として、原則的に正し

くない。と私は思います。なぜなら、この方法は婦人の職業の機会を決めるものですから、女子があらゆる職業についての知識を持っていない限り、今までの女の職業として考えられていた職業のほかに、よい就職の機会があつても、それを逃すことになりがちです。その結果、男女の仕事の分野がはっきりと分けられてしまい、すでに女の人が入っていた職場まで、男の職場として決められてしまうかもしれません。

職業指導は相談員の能力によつて左右されることが多く、相談員の任務は重いのですが、婦人の相談員の中には古い観念の人が多く、乾癆的な感覚で、女らしい職業につくことを望み、男性的な職業につくことを望まない人が多いのです。また反対に非常に新しい考えの相談員もいて、少女たちを新しい分野に送り出すように努力していますが、そのような人は、あまりにも自分自身が情力的すぎるので、性急に少女たちを新しい骨の折れる仕事につかせようとします。そのため思わぬ故障がでたりして、結局失敗に終ることになります。

職業指導は相談員の仕事を人々が信頼できるかどうかによつて、成功もし、失敗もします。そしてもし1度失敗すれば、それは相談員にはたつた1度の失敗でも、相談を受けた人にとっては、一生の問題になる場合もあります。また1人の相談員の失敗によつて、婦人の相談員はだめだといわれたりしますから、綿密な注意が必要です。しかし婦人の相談員の中にも、バランスのとれた立派な人もあることは勿論です。

フランスでは男女によつて受持を分けず、人数によつて受持を定め、同僚の男子で、自分の知らないことについて、よい知識を

持つていれば、その人に来てもらつて協同して相談を行つたりします。

相談を行う場合、職業情報を持つていないことは致命的な欠陥になります。ヨーロッパでは相談員の訓練の問題とともに、職業情報をいかにして流すかということが大きな問題になっています。そのため国の中央に情報センターを置き、地方の機関や学校に資料を流します。それによつてこの問題は改善されてきました。また職業指導の地方機関が直接使用者側と連絡をとつて調査している所もあります。地方の指導所の職員は地方で得た資料と中央からの情報に接けられています。女子の雇用に関しては婦人団体の書記局など民間団体に調査しているところもあります。スイスの婦人委員会では、事業場と連絡して絶えず婦人の就職の機会についての情報を集め、それに解説をつけて各地の職業指導の機関に送っています。婦人委員会はまた婦人の地位を高めるための活動もしており、婦人の技能者の養成を行つて、婦人が職業上で高い地位につくことができるように努力しています。スイスは高級な技能によつて国の産業が維持されているので、熟練労働者の訓練には特別に力を入れています。

5. テストについて

相談員が行うテストは、男女によつて異つた種類のものを用いているところもありますが、これは必ずしも相談員の意志によるとは云えません。フランスのようにテストが義務性になっている国では、男女によつて項目がきまつているので、それに従つて処置するより仕方ありません。一般の傾向としては、男子に対しては機械に關係あ

るテストが行われ、女子に対しては、指先のきょうさや、その他繊細さやリズム感など、細かい感受性を調査するテストをしています。このほかにも、もちろん男女共通のものもあります。

このテストの方法に対して、女子は繊細なものが適するというような先入観によつて女子に対することはよくないという反対があります。これは結局、雇用の機会を制限することになりますから、男子は子供のときから機械類が好きになるように、おもちゃでもそういう種類のものが与えられ、機械を扱う習慣が身につけられています。それに反して女子には人形やままごと道具が与えられますので、大きくなつてからも、ずっとそのことが影響しています。児童期の習慣は実に大切なものです。

児童を扱う場合、先入観によつてきめてしまつてあやしまないという傾向は親にもありますが、職業指導の相談員の場合は、もつとも好ましくないことです。

6. 就職指導について

15歳くらいになつた少女が就職しようとするとき、どんな態度をとるでしょうか。ヨーロッパではまだ誤つた考え方が支配しています。少女たちの多くは職業をえらぶとき、学校生活と結婚生活の間のあなを埋めるためだと思つていて、選択する場合、冷静を欠いています。何年後に夫を見つけるか、そしてその夫は2人が生活できるほど十分に稼げるかどうか、ということをはんと考えていません。ですから収入が多く、簡単に入れ、身ざれいで、その上、自分の友達が先に入つていて様子がわかるころというような安易な考えで、そ

の仕事の将来性も考えずに飛びこんでしまうので、いつまでも未熟練労働者から抜け出ません。そしてあとで不満になり後悔するようになります。これは女子の軽率をせめるのではなく、職業指導がまだ不十分だということが云いたいのです。

また少女たちの中のもう1つのグループは比較的まじめですが、職業に対する知識がないために不幸な結果をもたらしています。このような少女たちは、従来から婦人たちが働いている職場に殺到します。例えばセクレタリーの養成所に入つてタイプなどを習い、それで一生食いはぐれないものと思つていますが、今はそういう職業にはすでに女の人があふれています。野心もあり、知性もあり、学歴もある人でも、自分はどのような職業へ進めるか、どのようなコースをとつたら有利か、というような知識に欠けているので、途中で挫折することが多いのです。

職業指導は以上あげたようなグループのどれに対してもサービスを行わなければならないのですが、まだ決して満足できるまでに行われていません。フランスでは職業指導は法律によつて義務化されていて、職業指導の機関はだれでも通らなければならないことになっているのですが、実際には40%しか受けていません。スイスでは60%が職業指導を受けています。

一般に女子は男子よりも職業指導を受ける人が少く、むしろ成人教育の方に婦人が多いのは、子供のとき受けなかつたので、おとなになつてから困り、新しく職業訓練を受けようとするためです。

学校教育の中で、必ず予備的な職業指導は受けなければなりません。それによつて

女子も社会と職業の関係や、職業に取り組む態度を学びます。学校を卒業してよい就職する段になれば、相談員がひとりひとりを指導します。多くの相談員は少女たちが職業についての知識や関心を、あまりもっていないことを検閲しています。

例えば、早く結婚したいという人が、あまり結婚の相手を見出せないような職場を選んだり、また一方、早く結婚しては都合がわるい人が、結婚の機会の多い職場に入ったりしています。これは女子が職業についての知識を持っていない結果です。

7. 相談員の任務

相談員はロマンチックでなく、統計的な指導によつて、それぞれの個性にあつた職場にむけなければなりません。また女の人の中には結婚後も続けて働きたい人もありますから、相談に当つては、その職場が、結婚後も続けて勤務できるかどうか確かめておくべきです。また職場によつては女子を使用することを好まない使用者もあつて、このような使用者は女子の訓練を本気でしないので、昇進の機会がありません。

また両親の中には、娘に職業的訓練をさせることをあまり好まない人もありますので、相談員はこのような両親を説きふせるための努力もしなければなりません。

現在は職業指導に対して各種の財政的援助がなされており、イギリスには少女が自宅から離れて訓練できる施設がありますし、スイスには財団による援助があります。

職業指導のねらいは、婦人に難かしい条件を強いることではありませんが、ひとりの婦人がある職業で失敗すれば、せつかく婦人に開かれた門を閉められることもあり

得るので、慎重を要します。50年60年前の婦人たちは1種の開拓者としての責任を感じて職業の道を歩んできましたが、今の時代の婦人たちは、個人個人がよい成績をあげることに中心をおいて、婦人全体の立場をあまり考えていません。しかし婦人はまだ總ての職業分野に入つていませんので、新しい職場では今でも開拓者になるのですから、責任を持つてほしいのです。相談員はこのような開拓者として新しい分野に入つていく人に対しても、そこで失敗しないように援助の手をさしのべるべきです。

職業指導は少年少女のためばかりにあるのではなく、中年以上の人々に対しても行われ、最近では多くの人々がその恩恵を受けています。若い時に職業選択を誤まり、改めて適当な職業を探したいという人、途中で自分の興味が変つてきた人、夫の収入では生活できない人、未亡人など、いろいろあります。いちばん気の毒なケースは、今まで人に頼つて生活してきた人が、どうしても働かなければならなくなつたという場合で、これらの人々は全くどうしてよいかわからないので、職業指導という機軸を通じてのみ救われ、それぞれ異つた事情に従つて、個別的な細かい配慮と相談を受け、1人1人が国の生産の中に吸収されています。

個人的な配慮こそ職業指導の基本的な特徴であり、国においてどれだけ有能な相談員を持てるかということによつて、婦人の雇用の問題も、ある程度解決されるでしょう。そして職業は男女の差によつて選ばれるのではなく、あくまで個人の長所・短所によつて選ばれるものとなり、多くの女権論者も、雇用の問題については、もう何も争う必要がなくなることでしよう。